

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590400053		
法人名	社会福祉法人ほのぼの会		
事業所名	グループホームしのだ		
所在地	近江八幡市上田町540-1		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポンアクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一人・ひとりに合わせてゆっくり、ゆっつりのんびりと・・・」を介護の理念に、その人らしく暮らして頂けるように支援させて頂いております。朝夕の申し送り、毎月課内会議にてご利用者様のケアについて話し合い、共有を図っております。特に、個別ケアについてはその方の出来ること出来ないことを見極め日常生活での関わりを、自然な形で行っていただけるように努めております。何かあれば、家族様にも連絡させていただいております。地域との関わりについては、回覧板を回して頂き、しのだ便りも読んで頂いております。地域の方より依頼があり、公園の花壇を使わせて頂いております。また地域の方々に野菜や花などを頂き、観桜会、コスモス会等の地域の行事にも参加させて頂いております。地域の防災訓練、避難訓練にもお声かけ頂いております。しのだの避難訓練のも地域の方に参加して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

申し送りや会議の中で、日常の行動を振り返り、「魅力あるしのだにするための11条」や、「6つのテスト」等の行動指針に照らして、理念が実践できているかどうかを確認する習慣が出来ている。法人では、「感染予防」・「身体拘束廃止」・「事故防止」・「防火防災」・「看取りケア」等々について13の委員会を設け各種課題についての対策を講じると共に、定期的な職員の教育研修に注力している。夜勤職員のバックアップ体制として、輪番で自宅待機者を配置することにより、夜勤時の安全性を高めると共に夜勤者の安心感を高めている。また地域住民との絆も強く、地域行事への参加や、事業所の避難訓練時に避難誘導の支援体制も構築できている。職員も「一人ひとりの関わり合いが大事」と笑顔で接し、ゆったりとした明るい雰囲気の中で生活支援が行われており、利用者の表情も穏やかで和やかな会話もある。

houmonn			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価(扇)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内(リビング・キッチン)に理念を掲げ常に職員全員が意識出来るようにしています。また朝の引継ぎの際時間を設け黙視しています。課内会議等でも実践につなげられるように取り組んでいます。	理念を玄関・居間・管理室に掲示し、パンフレットにも明記して利用者・家族・職員も周知している。毎朝の引き継ぎ打ち合わせ時や課内会議で、日頃の支援に活かされているかを確認して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園の花壇を依頼があり、使わせて頂いております。畑で採れたお野菜をいただいたり、散歩時の挨拶、また自治会に入り、回覧板を回して頂き、地域の行事、清掃に参加しております。また、こちらの行事にも参加して頂いております。	自治会に加入し、地域との情報交換を行い、地域の行事にも参加し地域の一員としての役割を果たしている。地域の公園の管理を任せられ、花や野菜作りを行なっている。近隣の小学校での福祉授業で車椅子についての指導をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の勉強会を開催しております。また、地域の公園の花壇をご入居者と一緒に行っているところに地域の方が来られる時もあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事参加のお礼も伝え、入居者、退居者の報告、事故報告など行い、また、生活はスライドショーにて観て頂き、説明させて頂いております。	市職員・地域の代表者・利用者家族等の参加で、隔月に開催している。介護の状況について報告し、行政からは各種情報を得ている。外部評価を受けた時はその結果を報告している。参加者から意見や提案を受けている。	会議議事録には意見や提案内容について、より詳しく記載して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの取り組みについては運営推進会議の時に報告し助言や指示等をいただいています。事故報告、入退所その都度連絡しております。介護相談員にも入って頂いています。	介護保険課と連携を保ち、利用者の状況を報告し介護保険制度改正について説明、指導を受けている。インフルエンザ発生の情報等体調管理の助言もある。職員不足の相談を行うことがある。介護相談員を2名月1回受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会に事業所職員も所属しております。また委員会主催の研修に全職員参加しております。ポスターも掲示しております。玄関の施錠については、道の交通量も多く常に解錠できる状況までには至っておりません。	法人に身体拘束廃止委員会があり、内外の研修に参加して拘束についての理解を深めて実践に活かしている。玄関から出ていく利用者があり、家族からの要請もあり交通災害の危険防止のため、時により施錠することもある。	玄関の施錠に関しては、施錠以外で安全確保をする方法の検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の職員との会話で話しています。虐待を引き起こさないために、日頃の職員のケア(ストレスがたまりやすい状況)に努めています。夜勤者の負担軽減の為にも待機制度、時間変更をしました。研修にも参加しています。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人に権利擁護委員会があり、その都度情報提供されています。個々に職員とも話しています。また研修に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、慎重に進めさせていただいています。入所時は特別に時間を作り、説明させて頂いております。日頃からご家族様とは話しやすい環境を心がけご理解いただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回家族会を開催させて頂き、ご意見等をいただける場を設け運営にも反映させていただいています。またご利用者様については、介護相談員さんの受け入れにより外部との接点を持っています。	家族会や面会時に、意見や要望を聞くようにしている。土いじりが好きだとの家族情報から、管理を任されていた公園の一角を、花壇や畑にして楽しんでいる。外出先についても提案を受けてイチゴやブドウ狩りに出掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の役職会議や、課内会議により職員の提案や意見をいただき反映させていただいています。また個々に応じ職員と話す機会を設けております。	毎月の課内会議や日常の打ち合わせの機会に、意見や提案を出している。配膳時の混乱を避けるためお盆を利用する工夫や、感染委員会の中で塩素系消毒液(ピューラックス)で手すりの消毒の提案があり実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回程度、職員の評価を行い給与等の見直しがされています。また職員の適正を判断し、役割を持って頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修につきましては、勤務を調整し全職員が受講していただけるように配慮しています。法人外の研修につきましては、研修に対し人選させていただき受講していただけるようにしています。また、利用者様担当制、役割を持って頂き、力を付けて頂けるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にあるグループホームと交流、情報交換しています。また地域の部会、近江八幡市地域密着型サービス事業所連絡会に参加しています。また弓削クリニックの勉強会にも参加している。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所時は職員からの働きかけが大切であると思っています。職員間でも十分話し合い、ご利用者様のお気持ちに寄り添い、不安が軽減できるように努めております。介護要約を作成し、ケアの統一に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面接において要望等は聞かせて頂いております。初期に築く家族様との信頼関係については、ご利用者様の小さな動きでも気づいたことは報告・連絡・相談を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画を作成させていただき段階で、ご家族様やご利用者様の意見を十分お伺いしサービスへとつなげさせていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様からの学びは大きいと思っています。できない部分をご利用者様間や職員との関わりによって支え合い共に生活を送らせて頂いていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様との絆は大切と考えます。来所時にはゆっくりお話していただける環境作りや、ご利用者様の出来ることなどをお伝えさせていただくように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望によってはお電話をおかけしたり、来所時にはゆっくりお話ができる環境を作らせていただいたりご支援させていただいております。	以前住んでいた自宅に行きたいと要望があり職員が付き添って出かけたり、電話を掛けたいとの訴えがあった時に家族に電話することや、家族と共にお墓参りにいくこともあって都度支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人ずつの性格などを把握し、ご利用者同士の関わりへの援助をさせていただいております。日中体操、レクリエーション、コーヒータイム、洗濯たみ等リビングにて皆様と一緒に過ごして頂ける時間を作っています。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても請求書に「しのだだより」を同封しています。入院退所になった場合もお見舞いに行かせて頂き、葬儀にも参列させて頂いております。特養に入所された方の面会にも行かせて頂きました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いや意向などを伺うようにし、3ヶ月に一度計画書に記載させて頂いております。困難な場合は、ご家族様の来所時伺うようにしています。	事業所独自に作成したフェイスシートの情報から利用者の興味、嗜好等を把握しておき、日常の会話・ドライブでの外出時・入浴後等のリラックスした時に思いを聴くようにしている。ドライブ中に外食の希望があり実施した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接で生活歴等確認させていただき、職員間でも周知するように努めています。また、昔の暮らしについても普段の会話の中、家族様面会時に伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ一日を過ごす中でも、個々の心身の状態は大切と考えます。当日の体調の変化に気をつけ、健康状態、現有能力についても職員が把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しは、ケア記録、モニタリング、本人、家族の意向に基づき、課内会議で検討し、3ヶ月毎、または状態の変化に応じて作成し、家族に説明し、署名を得ている。	介護計画は、モニタリング、本人・家族の意向を踏まえて課内会議で検討して3ヶ月毎に更新している。状態の変化があった時は都度見直し、家族に説明し同意の署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、目を通しその中で問題とされる部分については確認し課内会議に話し合い、場合によっては変更反映させて頂いていただきます。また、業務日誌の裏に随時変更点などを記入し共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに応えることはなかなか難しいのですが、その方が何を必要とし求めているのかを考えその方に寄り添ったケアを心がけています。園芸、お手玉、散歩、マッサージ、カラオケ等取り組んでいます。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	篠田花火を楽しんで頂いたり、神社にお参り、散歩、森林浴を楽しんで頂いています。また今年度より公園の花壇を使わせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接、入所時に意向確認しています。かかりつけ医との関係を大切に、場合によっては往診をお願いしています。必要時は送迎、付き添いをしております。	3名がかかりつけ医を継続して月1回家族付き添いで受診して、その結果は事業所と共有している。他の15名は月1回の協力医と歯科医の往診を受けている。さらに週1回の訪問看護が健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他の医療機関と契約し医療連携体制が整っています。週1回訪問看護を受けており、相談、助言もして頂いております。24時間体制で相談も出来、場合によっては訪問もして頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了解のもと情報を提供しております。またお見舞いに行かせて頂き、退院前カンファレンスに参加し、退院後の生活に繋がっています。医療機関主催の研修にも参加しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度より看取り介護をする事となった。契約時に重度化対応方針を作成して本人、家族の同意を得て調印している。医療との連携、家族等の信頼・協力関係、職員の教育・研修等を明記している。7月に弓削クリニックにも協力頂き、看取り説明会を行った。	契約時に重度化対応方針について説明して同意を得ている。看取り希望の利用者には看取り対応方針について同意を得ている。看取りに際しては、医師・看護師・家族・事業所間で作成した看取り介護に関する確認書に署名し、経過を記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様個々の連絡先や医療連携体制マニュアルを常に目の届くところに設置し方が一に備えています。法人内研修で救命救急実施しております。AEDも施設内に設置し全職員使用できます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに基づき年2回の昼夜間想定の実施訓練を実施し、地元の協力も得ています。通報は近隣3軒にも繋がり、スプリンクラーも設置しています。非常用食料・備品も備蓄している。	災害時マニュアルはイラスト写真入りで分かり易い。夜間想定を含み年2回の避難訓練を行っており地域住民も参加し、避難誘導の介助支援をってもらう体制ができています。消防点検は、年2回実施している。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活をして頂けるように、尊厳やプライバシーについては、課内会議時話あっています。一人ひとりの人格を大切に声かけには特に注意をしています。	課内会議で言葉かけや支援の対応について話し合っている。笑顔で接して利用者からも笑顔が見られるように一人ひとりに関わっている。特にトイレや入浴への誘導時の声かけには、尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わからない時や迷った時は本人に伺い自己決定ができるような支援をさせていただいています。また3ヶ月に1回、ケアプラン変更時改めて希望を聞いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望を伺い実施するようにしています。全体としてゆっくり、ゆったりと過ごしていただけるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えは極力家族様にお願いし、居室担当の職員がクローゼット等確認しております。外出行事の時はおしゃれを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のできる方が限られています。声かけし盛り付けなどお願いすることはありますが、レクリエーションを優先していただくこともあります。また本人様の状態に合わせた食事形態等で提供しています。	朝食は各ユニットで、昼夕食はセンターで調理している。盛り付け、洗い物等を出来る利用者が手伝っている。食前に誤嚥防止でバタカラ体操を行っている。食器は使用感のある陶器を使い、行事食や外食等で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については、記録しています。体調不良時には、その方にあった食事(お腹の調子が悪い時など)への変更も行っています。水分摂取の少ない方は好きな飲み物を購入する、水分ゼリーで工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の口腔ケア(うがい含む)の実施を行っています。義歯の不具合にはご家族様へ連絡し歯科受診へとつなげています。また訪問歯科にも入って頂いております。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けての排泄支援を目標に、一人ひとりのきめ細かな排泄パターンを記録し、行動パターンを観察している。トイレ誘導に努め、退院後オムツからリハパンに変更した例もあります。	利用者の排泄パターンを把握し適時トイレ誘導を行い、多くの利用者がトイレでの排泄が出来る。リハビリパンツから布ショーツに替わり快適になったとの事例もある。オムツフッターの指導も受け排泄の自立支援を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師から助言頂き、水分摂取、運動等を心かけています。主治医と連携をとり排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介助等希望を聞き、週3回に入浴し、入浴を嫌がる利用者様は時間をずらしたり工夫しております。職員と会話したり歌を歌ったりしながら入浴を楽しんで頂いています。職員持参のデッキで音楽も聴いて頂いております。	週3回入浴し、二人介助を要する利用者はリフト浴で支援している。同性介助希望者には意向を尊重し、入浴順番は固定しないように誘導している。職員と会話したり、歌ったりしながら入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後の休息や昼食後の休息は自由に行っていただいています。夜間の巡回を嫌がられる方は家族様と相談し、同意を頂き、夜間1回にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルを、いつでも閲覧できるようにしています。服薬変更時には全職員が周知出来るように回覧お知らせしています。服薬援助はその人の応じた対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事を見極め、楽しみと生きがいをもてるように努めさせていただいています。嗜好品についても伺い購入支援を行っています。カラオケ、お手玉、散歩、お笑い等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの篠田神社に散歩しています。またひなたぼっこ、ドライブを楽しんで頂いています。また、観桜会、コスモス鑑賞会、地藏盆などの地域行事、日帰り旅行にも参加して頂いています。	日頃は近くの公園や、利用者と共に手入れをしている畑に散歩に出かけている。重度化した利用者は車椅子にて日光浴を実施して五感に刺激をあたえている。家族会の支援で五箇荘の歴史博物館へ車で出かけ楽しんでいる。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況(修正案)	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては紛失や、物盗られ妄想などがあるため極力所持していただいています。が、持っておられる方もおられます。買い物時には立替払いによって購入していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時や必要時は電話のとりつきや、はがきの支援などをさせていただいています。年賀状など楽しみにされている方もおられます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には利用者様の作品、行事、日常生活の写真、絵画等を飾り、利用者様に楽しんで頂いています。トイレ、風呂、洗面所は清潔に保つように努めています。音響も用意し、音楽等も楽しんで頂いています。温度もエアコン、換気で調整しております。	居間から中庭が見え明るく、壁面には季節を感じさせる作品を飾っており、レトロな天井扇が回ってゆったりとした雰囲気である。台所から居間が見渡せ利用者の状況が把握しやすい。廊下にイベント時の写真を掲示し、会話のきっかけになるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファに座っての団欒や、裏口のちょっとした腰掛けなど、所々での空間で井戸端会議が開催されています。他者の交流により、「人間らしくなった」との家族様の声もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で整理の行き届いた空間であるように努めています。利用者は使い慣れた寝具、小道具類を持ち込み、絵画や両親、家族の写真などを壁面に飾っています。	居室の窓は大きく障子張りもあり適度な明るさと落ち着きがある。フローリング床にベット、使い慣れた筆筒、ドレッサー、家族の写真等持ち込み居心地よく過ごしている。衣替え時に家族支援を受け整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では張り紙などの工夫を行い、出来るだけ自立した生活を行っていただけるように取り組んでおります。動線に手すり、椅子を設置し、転倒せずに歩行して頂けるように取り組んでおります。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議議事録をもう少し詳しく記載してほしいとの話があったが、近江八幡市はホームページにアップする事もあり、ためらいがあった。	運営推進会議議事録を、個人情報に気を付け、詳しく記載する。	介護保険課様とも相談し、詳しく記載していく。	1ヶ月
2	6	玄関が施錠されている。ボタンを押す事により、開錠できるが、自由には外にはできない。	玄関の施錠以外に、新たな方法を検討する。	課内会議等で議題として提案し、方法を模索していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。